

黑部川洪水及水害

DI
N
35

登録	昭和 63年 5 月 30 日
番号	第 35003 号
社団法人	土木学会
附属	土木図書館

本川の洪水に關し、上古に於けるものは文献の徵するもの更になく、中世以後は最も著しきものには、就きてのみ、隴氣^{りゅうき}から片鱗^{ぺんりん}を窺ふを得るに^{とら}足^{たり}ざるを以て、主として明治以後のものに就き、下新川郡誌及越中史料に顯はれるものを左に摘録す

天慶年間（紀元一八九八年）

一、黒部川洪水により旧畑害を蒙り、若栗村に鎮座せる八社の神廢三社を以て流矢するに至りしと云ふ（若野神社縁起）

一、黒部川洪水のため、本川は兩瀨の南と北との兩方に分流す。

此爲め兩側に川の瀨ありとの意味より兩瀨の名をせず。（口碑）

一、黒部川暴漲し、五社の神を大越に遷せしより、御越と云ひしを後に大越と誤書せり（口碑）

嘉慶年間（紀元一八九六年）

一、黒部川大洪水ありて、奔流直ちに石田村を衝き、或は埋没し、或は流潰して一朝にして瘠土と化す。石田村なる名称は洪水のため、全村の良田荒廢して、石田となりしより來ると云ふ傳ふ。

寛永年間（紀元三三八四年）

一、黒部川大洪水あり、浦山村草高慶長十五年（紀元三二七〇年）千四百九十五石七斗、新開二百四石三斗都合千七百石の處、流失せしため、六百二十石引高し、分裂したる地所は今の浦山新村是也。（大路水經）

一、元禄年間（紀元三三四八年）黒部川洪水のため、村内分せらるるも、其以前は青木とて一團の大村たり云々（岩生村の學校調書）

寶永年中（紀元三三六四年）

黒部川大洪水あり、入善町附近の家屋及大木の打倒と小一面土砂を蒙るに至り。（入善由来記）

正徳年間（紀元三三七一年）

黒部川洪水にて、浦山、岩栗、岩生等の數村を貫き、奔流し、岩栗村はために數百石の田地を流失せり。此時岩栗村より今の小摺戸村一宿新及岩栗新等分裂せり（口碑）

享保十一年（紀元三三八六年）

霖雨のため、黒部川漲溢し、砂石を以て田園を荒廢せらるるを以て當年は二歩免除せらるり。（入善由来記）

寶暦年間（紀元三四一一年）

黒部川大氾濫し、もと古黒部村を流小なるを今日の如く村の西境を流る、に至り（飯野の學校調書）

尚當村の被害高として記載する所左の如し

東狐村四百四石、上飯野村二百七十九石、袖澤村三十一石

上飯野新村七十五石、白森七十五石、柴垣新三十一石、本村百五十一石

文政十一年(紀元三、四八八年)戊子七月十日

黒部川出水し、下立、彌山、岩栗、荻生、大布施、村椿、生地、石田の諸村に氾濫す。(口碑)

安政三年(紀元三、五二六年)及安政五年

黒部川洪水により、飯野村に於ける十村野島友之助の南墾地四百畝石の十中七八流失す。(口碑)

明治四年五月五日

黒部川出水あり。(富山縣警察部保安課調査) 明治四年五月五日。黒部川出水、下立村堤防百三間欠壞し、田畑の流失

すむもの三十三町あり

明治八年五月

黒部川大洪水あり、飯澤村受持堤防、字下場凡百五十間

破壊し、飯澤村、吉田村、板屋村、飛驒村、大角井新村、大開、荒俣村等の諸村人家耕地等流失せしもの夥しく多大の

損害あり、其の翌年九月に至り是れが復旧工事の必要を感じ、官郡村の三勢を以て、飯澤村字君島同荒田の

束曲に延長百二十間の築堤を以るに在り

明治八年六月

是月、黒部川出水

(富山縣警察部保安課調査) 明治八年七月、黒部川出水、

飯澤村堤防百五十間を欠壞し、水田數萬畝に浸水す、其の損害甚し。

参考

(下新川郡村松村尋常小学校報告) 本村大字飯澤村
字表島同荒田の東端田の堤上流に延長百二十間の築
堤あり是は明治八年五月黒部川大洪水に於て飯澤村受持
堤防下下場凡百五十間計破壊せし故、明治九年更に
此計に築きしなりと云ふ。

明治十八年七月一日

諸川満水、加ふるに暴風雨化し、黒部川堤防を破壊す。

明治二十三年十月

四日早朝より吹き初めたる世の暴風は次第に雨に伴ひ来り
翌五日より六日に亘る豪雨は、縣下各河川の大洪水を招くに
至りし。

黒部川に於ては水量高點は六日午前、時に於て一尺余

小指戸渡船場の繰網切断したり

明治二十四年七月

十七日、十八日の豪雨のため、各川、非常の出水あり、多大の損害
を與ふるに至りし。

黒部川に於ては十六年の夏本橋に於ける水量一丈一尺を示し、
下往還櫻枝橋東方、板橋の合は海に没落するに至る。

兩岸の堤防中、亦被害甚かつ、中ノに、高島、下立、補山、
荒原、小指戸、板屋、荒原等甚大なるものにして、是等諸所、

の破壊三百間より五十間に亘る。就中、板屋前に於て、約百
間、荒原前に於て、百八十間の決壊を見る爲め、飛騨村及

大開村に於て、罹災家屋十六戸、流失田地凡四町步に及ぶ、
荒原村に於ても半潰又は全潰家屋三十戸あり、慘状を
極めし。

堤防破壊中、最も甚しき所は福島前の切折にして、全川水量の殆んど半は、之川に注ぎ、滔々たる奔流、猛烈を極めたり、是を以て、入善街道は上飯野村、東狐村の間にて舟渡を設け、漸く國道の交通を見事に亘小り、此出水の如き、黒部山林ありの流林夥しく、佐々木、山林看守にまうて、入札拂とせざる向きのみにても、受本以下にて実に千五百圓以上に及びり。

明治三十八年七月二十日

黒部川洪水、水量一丈、櫻枝橋六十間没落。

明治三十八年八月八日

黒部川出水、堤防を欠壞すること八十間、山林を流失すること六百六十歩、田畑の流損五千八百三十歩に及びり。

明治三十九年七月七日

黒部川一丈五寸、荻生村にて、八十間、岩掛村にて四十間、蒲山村百四十間、小摺戸村二百間、其他堤防破損甚かつす
明治三十九年七月八日

黒部川出水泥岸堤防の欠壞凡そ三百五十間、田畑の流失五千余町歩に及びり。

明治三十九年七月十三日

黒部川十一尺、荻生村堤防百五十間、岩掛村二百三十間、破壞、同村に、家屋三戸流失の不幸を以る。

(富山縣水害誌) 黒部川十一尺、堤二ヶ所三百七十間欠壞、流失家屋三戸。

(富山縣警察部保安課調査) 明治三十九年八月十三日

黒部川出水、一丈五尺、岩掛村大布施村等、堤防六るり十四間を破壞し、百五十間を欠壞し、田地十六町余

人家二戸を流失せり。

明治三十四年七月十七日

黒部川出水

(富山縣警察部保安課調査) 明治三十四年七月十七日
黒部川出水、下立村等堤防六十間破壊、田地の流失
十所あり。

明治三十五年七月十日

(富山縣警察部保安課調査)

明治三十五年七月十日
黒部川出水、堤防を破壊し、田地を流失せり。

明治三十八年八月十日

(富山縣警察部保安課調査)

明治三十八年八月十日
黒部川出水、堤防一丈一尺、堤防の破壊、十間余り
出水氾濫せり。黒部川一丈一尺、堤防の破壊、十間余り
損害償約一万圓、山嶽崩壊、谷所に起り、土砂各支川

を氾濫せり。

明治三十二年九月三日

九月十六日未よりの降雨にて、黒部川増水し、同月三日の
下立村の量水標ト尺に達し、下立村、大布施村、村橋村、
小摺戸村地の堤防四箇所三百五十七間を破壊し、
大布施村地に浸水、耕土の流失二町一反、其の洪水
汎濫面積十町あり及び、其の損害一万八千三百三圓に
達せり。

明治三十五年七月十七日

降雨にて出水同日午後五時最高水位、大布施村、岩瀬の
量水標六尺に達し、大布施村、村橋村、飯野村、新屋村、
地内の堤防六箇所、四百三十八間を破壊せり、其の損害
一万九百七十四圓。

昭和十四年

七月二十、八月五日、八月十五日、八月二十五日の四回に渡り黒部川出水
下立村、荒栗村、萩生村、大布施村、村橋村、新屋村、飯野村
地内の堤防十二箇所、千九十二間を決潰、闕損し、汎濫面積
六町五反、其の損害五万四千九百四十九円の多きに達せり。

大正元年

沛然とる豪雨は七月三日より降り、増水益々其の度を
加へ七月二十五日に至り俄然大洪水と化し、堤防の缺潰、実に
四十八箇所、二千四百三十一間に達し、其の汎濫面積千八十七町
一反、其の被害、野中村、生地町、村橋村、大布施村、三宮町
下立村、浦山村、荒栗村、下立村、内山村、安石村、舟見町、
新屋村、小摺戸村、青木村、飯野村、上京村、入善町の
四町十四箇村に及ぶ田の流失、埋没三千七町歩、浸水

九百十九町四反、米穫の損失三千百に上れ、畑の損失千に町
九反、浸水三千二町九反、其他の土地の浸水、並埋没するに九ト
町一反、家屋の流失三千三棟、浸水千七十八棟、住家以外の建築
物の流失、浸水は百二十四棟、人事の被害に於ては、死一人名
負傷三十九名を出し、実に凄惨を極め、未曾有の大洪水
なりき。其の損害、実に四拾六萬四千三百九拾八圓の巨額
に達せり。

大正二年

八月二十四日の降雨に依り三千七百六十八町歩、其の極に達し
下立村、浦山村、荒栗村、村橋村、新屋村、小摺戸村
飯野村に其の被害を及ぼし、堤防の破損すること九箇所、
四町四十八箇、汎濫面積十町歩、其の損害二万三千
五百三十八円に及べり

大正三年

五月二十三日最大洪水、其の被害区域下立村、浦山村、若栗村、
一秋生村、村橋村、新屋村、飯野村に及ぶなり。

同年七月二十三日、同い出水、浦山村下立村、愛本村に被害を見せり。
同年八月十三日三度洪水、大布施村、下立村、野中村、飯野村、愛本村、
若生村、村橋村に其の被害及ぶ。是等三回の出水に依り、堤防の
破損並に破壊三箇所、三千六百十六間、田の流失浸水八十
五町歩に及ぶ。損害九萬二百五十二圓に上り。

大正四年

六月十九日出水、若栗村、村橋村、新屋村に被害を及ぼし、堤防の破損
三箇所、三百九十六間に及ぶ。其の損害一万三千六百二十五圓に及ぶ。

大正五年

黒部川洪水被害所村四箇村に及ぶ。其の堤防の切斷四箇所、百二間、

に及ぶ。其の損害三万五千二十四圓に達せり。

大正六年

黒部川洪水二回、其の被害町村十五に跨り、堤防の切斷百九十五間、
氾濫面積四百五十五町歩、是れが田の流失、浸水四百三十三町六反、
畑の浸水二町九反、米獲の損失八百三十六石、其の損害實に
拾壹萬壹千八百に及ぶ。

大正七年

被害度数二回、堤防の切斷一八二間、被害四箇村に跨り、其の
損害壹万貳千壹百七拾叁圓に及ぶ。

大正八年

黒部川洪水にて被害二回、亘り堤防の切斷百六十五間、氾濫
面積四反、是れが田の被害を被りたる町村十箇町村、其の損害
五万五千百三十一圓に達せり。

大正九年

黒部川出水、堤防の欠壞並破損二百十一間、橋梁の流失、破損二十七間、之れに七箇町村被害を受け、損害拾万四千三百三圓に上ルリ

大正十年

黒部川洪水にて橋梁三箇所流失し、三箇町村に被害を受け、損害一万七千八百三十三圓に達セリ

大正十一年

連日の雨で七月七日平水位以上六尺五寸に達し、三箇所、三十九間の堤防を缺損し、下立村、小指戸村、村藤村、大布施村に被害を及ぼし、更に八月四日飯野村に八月八日新屋村に被害を見、是れがため蒙リたる損害三万五千九百二十六圓。

大正十二年

五月二十一日平水位以上四尺七月一日同七尺七月十八日同二尺五寸出水、堤防三箇所六十二間破損し、荒栗村、荻生村、飯野村、下立村、浦山村に被害を及ぼし、之れに三万七千八百三十八圓の損害を生ゼリ。

大正十三年

五月九日村橋村、飯野村に被害を與へたる洪水は平水位以上三尺五寸、七月三日平水位以上二尺八寸、下立村、荒栗村に被害を見、三万出水、八月三日平水位以上五尺に達し、荻生村、新屋村に甚大なる被害を受け、是年か損害三万一千四百九十三圓に達し、堤防の破損四箇所、百四十三間に及ぶ。

大正十四年

前日の降雨に依り、七月十日出水、平水位以上二尺九寸に及び、被害を下立村、荒栗村、飯野村、村橋村に、同年八月十日

第三回の出水受本村、生地所、新屋村、舟見所に損害を與へ堤防の欠壞五十三間に及び是等かため二万五千三百七十六圓の損失を生ぜり

昭和元年

黒部川出水のため四万五千二百八十圓の損害を生ぜり

昭和二年

本年出水、被害を醸せしため、四万六千九十五圓の損害を與へたり

昭和三年

六月二十三日末の驟雨に同二十七日迄に平水位以上二米に達し、堤防の欠壞並破損四百九十八間、美所、飯野村、大布施村、村椿村、下立村に被害を及ぼし、損害三万六千六百圓に上り

昭和四年

九月十日平水位以上二米に、湛面積三十七アール、浦山村、飯野村に被害を及ぼし六千八百十三圓の損害に及びり

昭和五年

降り出した雨は七月九日、十日、十一日と晴間を見せず遂に、回来二の最大水位を占し、堤防六百三十六米を破損欠壞し、更に其の水威は橋梁六米を流失せしめ、田二百三十一アール、畑五百二十アールに浸水流失せしめ、飯野、大布施、村椿、若栗、小摺戸、浦山、受本の名村に損害を與へ、其の額九万二千九百五圓に及びり。

昭和六年

七月九日末の雨は十二日迄續き、平水位以上一米二、堤防の破損三五五米、橋梁の墜落二箇所、田の流失埋没、浸水五百二十四アール、畑の流失、三三〇アール、田畑以外の土地

の流尖二百五パーセント、泥濘面積千四百十五パーセント、是れが
被害所村以内山、下立、岩栗、新屋、浦山、村橋、飯野、
小摺戸に亘り、損害額七万四千四百六十五圓に及べり。